

■色彩の基礎—色の三属性について

それでは、色彩の基礎ということで色の見方についてのご説明をします。それから五色の色のお話ですね。これは風水などでお馴染みの方も多いかと思うのですけれども、食にも大変繋がってきますので楽しみながら聞いていただければと思います。その後は、みなさんに演習をしていただきます。中華料理の盛り付けを意識して、模擬的にカラーカードを使っていろいろ盛り付けしていただきます。「デザインの要素なんか全然持ってないわ。」と思われる方もいらっしゃるかと思うのですけれども、とても簡単で楽しい作業です。自由な発想で、立体的なものをつくられる方などもいらっしゃいます。あまり食材ということを意識しないで取り扱っていただければ、より楽しめると思います。

それでは『美的に見える“いろ”』についてですが、こういったもの（PCCSの色相環）をご覧になったことがある方はどのくらいいらっしゃいますか？こちらを色相環、色の環と呼んでいます。この色の環は、こちらのPCCSのトーン分類にも同じものが載っているのですが、様々に変化していろいろな色に変わっていくわけです。昨今、色彩検定などがとても盛んなので、もしかしたらこの中にもそういった資格にチャレンジした方がいらっしゃるかと思いますがどうですか？または学校のときの授業で見たことがあるという方もいらっしゃるかもしれませんね。色を見るには三要素を知っていただくと、その後の配色方法などにも大変役に立ちますし、この色相環とトーン表は配色に便利なツールですので、把握できますと配色の達人に近づけると思います。

色の三要素ということで“色の三属性”と呼んでいます。まず赤だの黄色だのという色味のことを“色相”といいます。これは色彩用語です。色を表すのに「ピンクのセーター買ったのよ。」って電話でお話しても、実際に買ったピンクのセーターの色と、聞いているお友達を感じるピンクのセーターの色は同じはずがないんですよ。それをなるべく「桃みたいなピンクなのよ。」とか「サーモンピンクなのよ。」などという説明をして色の様子を伝えるかと思います。では、色はどういうふうに伝えるのが一番正確かということ、面白くも何ともなくなるんですけれども、数値で示すのが一番正確ではあります。こちらにいろいろなカラーの色見本を持ってきていますが、それもやはり退色したりします。また面積効果と言って、カラーチップで見ても、壁とか床とかになってしまったらだいぶ印象が違いますので大失敗したなんていう方もいらっしゃるかもしれませんね。「こんなはずじゃなかった。」と、手でカラーチップを見て決めただけでも大面積にしたらすごく派手だったということがあるかと思います。

そして2つ目に“明度”というものがあります。明るい・暗いということですね。例えば、この色相環も上が黄色で下が青紫の配置になっています。これを反転してしまうと安定感がなくなるのです。やはり黄色は明るいから上の方に持ってきていますね。それと同じようにお部屋のインテリアにしても、もしこの部屋の天井が低めで黒い天井だったりしたらすごい圧迫感があるということです。やはり床・壁・天井の色を選ぶときにも明度というのはとても重要になってきます。

3つ目が色の力強さで“彩度”といいます。このあたりを整理したのがトーン表（PCCSトーン分類）になります。色相環には24の色がありますが、もちろんこの色と色の間にたくさん間の色というのもあるわけです。トーン表の右側をビビッドトーンと言いますが、

ビビットトーンにどんどん白を足していくことによって、白というのは一番明るい色ですから、明るく変化している様子がわかります。色相環で同じ位置にあるものは同じ色相なのですが、白を足すことによって黄色はクリーム色に変化しています。その代わりビビットトーンの彩度は白を入れることによって落ちていきます。トーン表の一番上の列は、左に移動するにつれより明るくなるけれども、鮮やかさ・力強さは減ってきているということで、ビビットトーン・ブライトトーン・ライトトーン・パールトーンと変化します。よく陶器などでパールピンクなんていう色名があると思うんですけども、ちょっとだけ色が付いてるものになります。また黒を足していくと、(トーン表の一番下の列にあるように) どんどんどんどん明るさは落ち、色の強さ(彩度)も落ちていきディープトーン・暗めのダークトーンと変化し、ほとんど黒のダークグレイッシュを過ぎると黒になってきます。黒が一番明度が低いです。間の色も中間色としてありますが、トーン表の一番左の白から黒に至る列を無彩色、それより右側を有彩色と呼ぶこともあります。明度と彩度の複合概念としてトーン表があり、これは日本で開発された PCCS というシステムですけども、とても配色調和がしやすく、ものさしのようなものになっています。ですから「ちょっと可愛い色でまとめたいな。」というときにはライトトーンの色になるだろうし、ちょっとダンディーに渋くしてみたいというときはダークトーンの色を使えばいいということで、トーン表にある各色相環の中での調和は同じ要素があるものですから、とても合わせやすいということになってきますね。